

地方の常識

地域特性を活かした独自規格

第3回

マルハチ



写真1 名古屋市バス(稲妻にマルハチ見えますか?)

愛されて1000万枚 次の名古屋出張が8日であれば、あなたはラッキーかもしれない。なぜなら、ドニエロキッパが利用できるからだ。土日という曜日^{ドニエロ}に限定して、市バス・地下鉄共通の全線一日乗車券を割引している例は珍しいようである。そのうえ、名古屋市の場合、8日であれば、ビジネスデーでも使える。しかも、なごや得ナビ^{注1}をみる通り、おでかけ先のスポットでの割引もある。

名古屋市交通局によれば、発売を開始した2006年4月から今年で4年目。2009年10月に累計販売数1000万枚を突破したモンスターカードである。現在適用日には平均2万3000枚も売れており、これは当初見込みの3倍以上だそう。国内初の地下鉄の環状運転とあわせて、2007年日本鉄道賞「鉄道利用促進賞」を受賞している。さて今回は、なぜ8日? という疑問をとりあげよう。

マルにハチ 名古屋市バス(写真1)に、ひし形に囲まれた○にハのマーク。ひし形のギザギザに見えるのは、正しくは、稲妻。これは名古屋市交通局章である。1922(大正11)年に、名古屋市電気局が創設されて以来、現在に引き継がれる。一方、地下鉄の出入口写真^{マルハチ}には、トンネルの中に延びていく線路のデザインのマーク。これは、名古屋生まれの芸術家、杉本健吉さんの洒落たデザインだ。マルハチがうまくデフォルメされて、地下鉄のイメージに重ねられている。こ

れらのマルハチは、名古屋市の市章である。尾張徳川家の合印^{あいひん}として用いられていたマークを、1907(明治40)年に採用してつくられたといわれている。^{注2}

環境保全の日 ゴミ問題では「一周遅れ」といわれた名古屋市が、ごみ非常事態宣言の発令以来、ゴミ分別回収やレジ袋削減に取り組み、いまでは環境都市の「トップランナー」として知られるようになってきた。名古屋市では、毎月8日を「環境保全の日」と定めている。ドニエロキッパが毎月8日に利用できるのも、環境負荷の少ない公共交通の利用促進のためであり、意識すべき符合なのだ。5000円で600円のプレミアムが付いたユリカ、借りた人も全線で使える市バス通勤定期券などのきめ細かなサービスが実を結んでいるためか、2005年愛知万博の後も、市バス・地下鉄ともに乗車人員数が微増している。また、2010年度に導入されるICカードも、率の高いマイレージポイント制が採用される。オマケが



写真2 開園100年を迎えた鶴舞公園内にある地下鉄鶴舞駅の出入口(名工大での用務の後は、こちらからおでかけください)2009年秋撮影

本体を凌ぐようなモーニングセットに慣れた名古屋人は「お得」に弱い。成功の鍵は、案外そのあたりにあるのではなからうか? エコジョーとエコノミーのエコは語源が同じと書いてもそれほど驚かない。名古屋の人口急増地域である緑区では、地下鉄桜通線が延伸工事中(野並駅-徳重駅間)である。これもエコである。くれぐれも、タコ焼き屋の毎月8日のサービスデーの話と勘違いのないように! しかし、ソレもエコかな?

(注1) Web版なごや得ナビ <http://www.kotsu-city.nagoya.jp/guide/facilities/index.html>
(注2) 名古屋市(観光情報) <http://www.city.nagoya.jp/kankou/profile/>

北野利一 元・編集委員
(取材協力:名古屋市交通局)